

新たな教育環境をめざして

— 望ましい学校規模とは —

教育総務課・☎22216

学校には、子どもたちが多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、知(確かな学力)、徳(豊かな人間性)、体(健やかな体)の調和のとれた生きる力を育む『場』としての役割があります。

市教育委員会では、子どもたちが様々な社会変化を乗り越え、人生を切り拓き、社会の創り手となるよう、教育理念として『目指すべき子ども像』、そのための『求められる学校像』を元年12月に定めました。

その実現のためには、子どもたちが学校という集団の中で多くのことを学び、経験することが大切であるため、自分のよさや持ち味を存分に発揮できる教育環境を整えていくことが必要です。



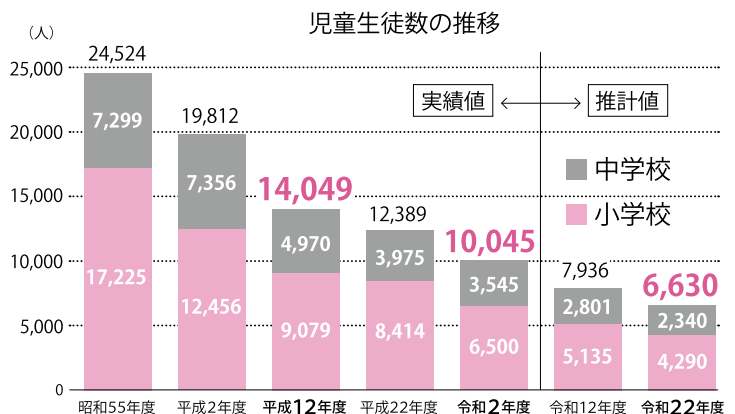
市立小・中学校の小規模化の現状

全国的な傾向として、少子化の影響により児童生徒数は減少しています。本市においても同様の傾向であり、小・中学校の小規模化が進んでいます。

市内の児童生徒数は大きく減少しています

市内の児童生徒数は平成12年度から20年間で約4,000人減少しています。

推計によると、今後の20年間で、さらに約3,400人の減少が見込まれています。



現のため通じた教務教育学(4校)で育学校やいて研究

地域とともにある学校づくり

子どもたちに求められる資質や能力は、多様な人々と関わり、様々な経験の中で育まれるものであり、学校だけで育成できるものではありません。

家庭や地域との連携・協働に努めた学校運営について研究を進めていきます。

今後の取り組み

- ▷小・中学校や未就学児の保護者など約4,000人に、学校再編に関するアンケートを実施
- ▷市学校教育環境審議会で、再編に向けた学校の在り方などについて検討

市内の小・中学校は半数以上が『小規模校』です

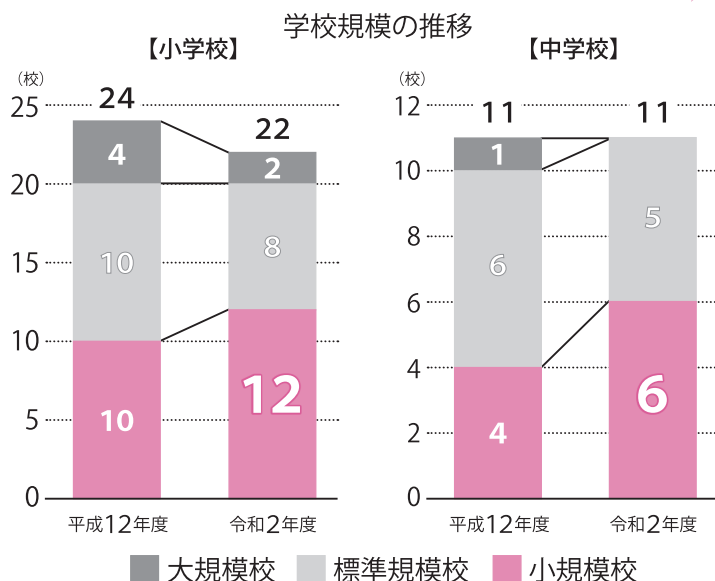
『大規模校』や『標準規模校』が減少し、半数以上が『小規模校』となっています。

また、1学級の児童生徒数の減少も進んでおり、小学校においては、10人以下の学級が9学級(令和2年度)あります。

▶学校規模の区分(1校あたりの学級数)

- ▷小規模=11学級以下
- ▷標準規模=12~18学級
- ▷大規模=19学級以上

※学校教育法施行規則を参考。



学校規模ごとの期待される点・課題とされる点

小規模校・大規模校ごとの期待される点と課題とされる点は、一般的に次のように指摘されています。

学校規模	期待される点	課題とされる点
小規模校	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係などが深まりやすい ・一人一人にきめ細やかな指導が行いやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係などが固定化されやすい ・クラス替えができない場合がある ・部活動などの設置が限定される
大規模校	<ul style="list-style-type: none"> ・社会性や協調性、たくましさなどを育みやすい ・多様な学習・指導形態をとりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の状況が把握しにくい ・学校の施設・設備の利用に制約が生じる場合がある

子どもたちが学びやすい教育環境をつくるために

こうした状況において、学校規模を標準規模に再編する検討を進めている自治体もあります。

将来の足利市の子どもたちにとって、より良い教育環境をつくるため、市教育委員会は、有識者で構成する『足利市学校教育環境審議会』を3年2月に設置し、『教育環境の充実や将来の再編に向けた学校の在り方』などについて意見を求め、検討を始めています。

ともに学び、ともに育つ教育環境づくり

学校を子どもたちの、より良い成長の『場』としていくため、小中一貫教育や学校と家庭・地域との協働などについても研究を進めていきます。今後、市民の皆さんと一緒に、子どもたちにとって望ましい教育環境について考えていきます。

小中一貫教育

より良い教育の実小・中学校9年間を育課程を編成する義務校が、県内では4市導入されています。本市でも、義務教小中一貫校などにつを進めていきます。